

Title	最近ノ金融問題(一)
Author(s)	谷村, 一太郎
Citation	経済論叢 (1915), 1(6): 766-771
Issue Date	1915
URL	https://doi.org/10.14989/126928
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷一第

論說

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(二)

法學博士 戸田 海市

●穀物倉庫論

助教授 河田 嗣郎

●貧富問題(三)(完)

法學博士 田島 錦治

雜錄

●大藏省證券ニ就テ尾上學士ニ應フ

法學博士 小川 郷太郎

●南洋新占領地研究ノ二まゝしやる群島研究

助教授 山本 美越乃

●保險學說ノ發展(一)

法學士 小島 昌太郎

雜報

●經濟的進化ト人口法則(二)(完)

講 師 米田 庄太郎

●最近ノ金融問題(一)

講 師 谷村 一太郎

●廣告稅ト廣告官營

法學博士 神 戶 正雄

●戰爭ト英國ノ貿易

助教授 河 田 嗣郎

●社會政策學會第九回大會記事

講 師 高 田 保馬

●京都法學會大會記事

甲號五分利公債

最高百四圓三十錢

最低九十七圓七十錢

第一四分利公債

最高九十六圓七十錢

最低九十三圓九十五錢

第一回四分利公債ハ二月十五日ヨリ二十五日マデノ期間
ヲ以テ募集セフレタルニ銀行及ビしんちげーとノ引受ニ
係ル一億圓ノ外一般應募額一億八千萬圓ニ上レリ

四十二年ハ彼桂内閣ガ四分利公債政策ヲ執リ財

政史上特ニ記憶スベキ時代ナリ、蓋シ日露戰役後ニ

於ケル事業勃興公債ノ増加及ビ輸入超過等ニ依ル必然的的反動ト
米國ニ於ケル銅ノ投機ノ失敗ニ基ク世界的經濟ノ動搖トハ、引
イテハ、我金融市場ニ一種ノ低氣壓ヲ生ゼシメタルモ、幸ニシテ
四十二年上半期ニ於ル日本製糖會社ノ破綻ヲ最後トシテ財界ノ
大勢ハ漸次回復ノ兆ヲ示シ、桂内閣ハ公債ノ償還ヲ爲シ以テ公
債相場ノ騰貴ヲ促ガシ、銀行ノ預金増加シ、全國普通銀行預金總
高ハ四十一年上半期末ニ於テ八億七千六百九十七萬一千圓テリ
シモノ、四十二年上半期末ニ至リテハ十億五百五十九萬三千圓
トナリ、前年ニ比シテ一割四分七厘ノ増加ヲ示セリ、尙社債市價
ノ成立セルモノ少カラス(註)遂ニ日銀ハ五月三日一錢八厘ニ改
正シタル商業手形ノ割引日歩ヲ八月十三日再ビ改メテ一錢六厘
ニ引下グ、年末ニ於テ三井銀行モ預金利率ヲ改定シテ定期五米
ヲ四米トナセリ

(註)民間諸會社中例ヘバ京濱電氣鐵道會社債ハ總額二百萬

圓年利六米十ヶ年擔據後十ヶ年以内償還手取百圓ニ付九

雜報

十圓ノ條件ニテふれざー商會ノ仲介ニヨリ成立シ又大阪
市ハ千四百萬圓ノ外債ヲ募集シタリ

四十二年ニ入ルヤ年末ニ放出シタル資金ノ回收極メテ順調ニシ
テ金融ハ浸漫トナリ、一月十日ニ日銀ハ商業手形割引日歩ヲ更
ニ一錢四厘ト改メタリ、同月二十六日四分利公債發行案閣議ニ
上リ二月五日滿鐵株主總會ハ政府ノ保認ヲ得テ社債四千萬圓ヲ
外國ニ募集スル案ヲ決議シ、更ニ政府ハ又一回四分利公債借替
規程ヲ發布シテ各種五分利公債トノ借替ノ便法ヲ設ケ、二月二
日勅令ヲ以テ郵便貯金利率年五分四毛ヲ四分二厘ニ引下ケ四月
一日ヨリ施行シタリ、更ニ三月三十一日國債一千萬圓抽籤償還
ヲ告示シ、二十五日期限ノ大藏省證券二千萬圓ハ千八百萬圓ヲ
現金ニテ償還シタリ、三月五日ニ至リ日銀ハ商業手形日歩一
錢三厘ニ改正シ七日ヨリ施行シ、十一日海軍公債未償還全部七
百十九萬九千三百圓及整理公債四千三百萬圓ヲ四月三十日ニ償
還スベキ旨ヲ告示シ、次テ十五日ニ至リ第二回四分利公債一億
圓發行募集ヲ發表シタリ、三月一日大阪銀行組合ガ預金利率ヲ
改定シタルハ既述ノ如シ、而シテ四十二年末ノ全國普通銀行ノ
預金總高ハ十一億四千四百四十四萬三千五百四十四圓ニシテ、之ヲ
前年度十億五百五十九萬三千九百四十二圓ニ比シテ一割三分五
厘ノ増加ヲ見タリ、前記改定利率ハ大正元年十二月一日マデ持
續シタルモノトス

二

本年(大正四年)ニ於テハ預金利率ハ三月二十日
以來三回ノ引下グヲ爲セリ

第一卷 (第六號一三五) 七六七

改定時日 定期 當座 小口當座
 大正四年三月二十日 五分五厘 六厘 一錢一厘
 同 六月廿一日 四分五厘 五厘 一錢
 同 八月十一日 四分 四厘 八厘

事爰ニ出デタル由來ヲ釋ヌルニ大正三年八月歐
 洲戰亂勃發以來金融界ハ激シク沈滞シ一般市場
 ハ不景氣ヲ訴ヘ特ニ北濱銀行(大阪)ノ破綻、明
 治銀行(名古屋)ノ取付其他山陽地方名古屋地方
 二三銀行ノ支拂停止アリテ金融界警戒最モ嚴ニ
 シテ加フルニ手形ノ形式ヲ以テろんどんヨリ借
 金ヲ爲セル者鐵淵紡績ヲ初メトシテ日本興業臺
 灣銀行其他鹽水港製糖會社等ハ期日ニ於ケル辨
 濟ノ爲メニ一時關係アル銀行ヲシテ支拂金ノ準
 備ニ腐心セシメタルモらどりゆゝむ法ノ實施
 セラルルアリテ借入外資ノ償還ノ急ヲ要セサル
 アリ青島陷落後各方面ノ航路安全トナリ軍需品
 ノ注文ニ對シテハ一時代金授受ノ場所ニ苦シミ
 タルモ倫敦ヲ以テ決濟所トナシタル爲ニ引受確
 定シ輸出多額ニ上リ米穀輸出スラ見ルニ至レリ
 斯ノ如クニシテ貿易關係ハ漸次回復シ金融亦前
 途ニ障礙ヲ豫見スルコトナキヲ以テ株式市場ノ

好調銀行預金ノ増加ヲ來タシ大正三年十二月末日ニ
 於ケル大阪銀行集會所組合銀行(本店二十二行支店二十行)ノ預
 金總高二億五千七百七十萬四千五百三十二圓ニシテ之ヲ二年十
 二月末ノ二億二千九百十四萬五千四百四十二圓ニ比シテ二千八
 百五十五萬九千〇九十圓ノ増加ニシテ增加率一割二分四厘ニ當
 レリ更ラニ東京銀行集會所組合銀行(本店三十六行支店三十一
 行)預金總高四億四千八百二十萬九千三十九圓ニシテ之ヲ前年
 度三億八千七百二十七萬三千五百二十二圓ニ比シテ六千九百三十三萬五
 千九百八十七圓即チ一割五分七厘ノ增加率ヲ示セリ。斯ノ如
 ク預金ハ増加シ大正四年一月ニ至リテ資金ノ回
 收頗ル迅速且饒多ニシテ東西市場ノ遊資激増シ
 九月ニ於ケル兌換券發行高ハ十二月三十一日ヨリ減ズルコト七
 千三百萬圓ニ達シタリこゝるハ年末一錢以上ニ對シ七八厘ニ暴
 落シ一流手形亦一錢四五厘ニ低下セシモ資金ノ需要多カラズ舊
 節季前特別五分利公債一千萬圓ヲ償還シタルト其經過ト共ニ資
 金回收セラレ二月ノ田租酒造稅ノ上納モ何等影響スル所ナク三
 月十九日ニ於ケル兌換券發行高ハ一月二日ニ比シテ一億八百六
 十三萬九千圓ノ激減トナリ發行餘力六千萬圓ヲ告グルニ至レリ
 こゝる日歩五厘月越七八厘普通手形一錢二三厘一流手形九厘五
 毛乃至一錢トナリタリ

大阪組合銀行ノ預金ハ三月二十日二億七百九十九萬七千圓
 ニシテ十二月末日ヨリ増加スルコト三百四十二萬一千圓前年三
 月十四日ニ比シ實ニ一千七百八十八萬九千圓ノ増加ナリトス。

東京組合銀行ニ至リテハ四億一千五百五十七萬三千圓ニシテ十二月末ヨリ六百五十萬七千圓前年三月十四日ヨリ五千六百八十一萬一千圓ノ増加ヲ示セリ。爰ニ於テカ二月二十日第一回ノ利下アリ更ニ四月上旬國庫検査見セ金國稅ノ移納四千三百萬圓ニ達シ例年此移納ヲ機會トシテ金融ハ漸次繁忙ヲ呈スベキニ拘ラズ本年ハ何等ノ感應ナクこゝる五六厘月越七八厘一流手形九厘内外ヲ保合ヒタルノミ。而シテ預金ハ倍増加シ兼テ發行ノ噂アリシ大藏省證券ハ漸ク五月二十五日ニ至リ一千二百萬圓發行セラレ日歩一錢三厘ナリシト雖モ發行高少ナカリシ爲メ銀行業者ノ希望ニ副フ能ハズ。先途ニ於ル田租營業稅ノ納入二千萬圓并ニ製茶養蠶贖資金播麥ノ豫想モ毫モ市場ヲ刺戟スルニ足ラズ、六月上旬國債市債社債利拂ノ市場ニ散布スルアリ、外國貿易ハ輸出超過トナリ、こゝるハ五六厘ナリシモ一流手形ハ最低七厘半ヲ唱フルニ至レリ。六月十二日東西組合銀行ノ預金増加シ、大阪ニ於テハ二億二千四十一萬六千圓ニシテ、第一回利下當時ニ比シ一千二百四十一萬九千圓ノ増加ヲ示シ、東京ニ於テハ四億二千六百六十五萬二千圓ニシテ六百七十九萬九千圓ノ増加ナリトス。此ニ於テ六月二十一日再ビ利下ゲテ行フニ至レリ。六月二十五日大藏省證券一千九百二十萬圓ノ發行アリ、其割引日歩ハ七月二十六日期日ノモノ一錢一厘、八月二十六日期日ノモノ一錢二厘ナリ。時恰カモ營業年度末且月

雜報

末ナルが故ニ、こゝる月越一錢二厘トナリタルモ、無條件六七厘ヲ保合ヒタリ。越ヘテ七月貿易ハ益々輸出超過トナリ資金ノ需要殆ンドナク、一時市場ヨリ危惧セラレタル大隈内閣モ居据リトナリ、支那ニ於ケル邦貨ばいこつとモ鎮靜シ、歐洲大戰ヲ外ニシテハ危懼ノ材料ナキヲ以テ、金融界一層閑散トナリ七月二十六日發行職券一錢ニヨル四厘臺ヲ唱へ、一流手形六厘乃至七厘ニ下落セントシタルヲ以テ、八月十一日ニ至リ第二回ノ利下ヲ協定スルニ至レリ。八月二十二日ニ於テハ東京組合銀行預金總高四億四千八百七十萬六千圓ニシテ、第一回利下當時ニ比シ三千三百三十三萬三千圓ナリ、第二回利下ノ當時ニ比シ二千七百五萬四千圓ヲ増加シ、大阪組合銀行預金總高二億五千四百三十七萬五千圓ニシテ、第一回利下當時ニ比シ四千六百三十七萬八千圓ナリ、第二回利下當時ヨリ三千三百九十五萬九千圓ノ増加ヲ齎ラセリ。金融ノ大勢斯クノ如キナリテ八月二十六日發行ノ大藏省證券ハ其割引日歩九厘ト定ムルニ至レリ

三

預金利率ノ協定ハ東京ニ於テハ明治三十三年頭ヨリ行ハレタル處ニシテ、當時ハ組合銀行ニ於テ預金ノ利下ケヲ決議シ各自發表セル預金利率ノ引下ケオナシタルモノニシテ、組合銀行間大銀行、中銀行、小銀行ノ三階級ニ分チテ夫レノ異ナリ

タル利率ヲ協定シタルモノトス。

大阪ニ於テハ三十四年ヨリ東京ノ例ニ倣ヒシモ、今日ノ如ク各組合銀行ガ一致シテ同一歩合トナシタルハ實ニ三十五年以後ノ事ニ屬ス。

預金利率ノ協約ハ果シテ完全ニ勵行セラルルヤ否ヤ、是ヲ實地ニ徴スルニ殆ンド勵行セラレザルニ似タリ。現在ノ預金利率四采ト稱スルモ、多額ノ預金及ビ銀行ト密接ノ關係アル取引先ニ對シテハ固ヨリ依然協定以上ノ利率ヲ附シ、又銀行ノ信用程度并ニ營業方針ノ異ナルニ依リ内密ニ五采六采ニ及ブモノアリ。實際ノ預金利率ハ

- (1) 銀行ノ信用ニ依リ高下アリ
- (2) 一ケ年四采ト稱スルモ三ケ月四采皆クハ四采半六ケ月四采五厘若クハ五采トナジ期間ヲ短縮シテ重利ノ計算ヲ以テ顧客ヲ吸引スルコトヲ得

(定期ハ多ク三ケ月、六ケ月、一ケ年ト定ム)

以上ノ如ク事實ニ於テ勵行セラレザルヲ以テ是ガ廢止論ナキニアラザルモ、組合銀行ガ尙表面ニ上協定ヲ固執シツ、アルハ、實ニ左ノ理由ノ存スルニ依ル。

- (1) 一般預金者ニ標準利率ヲ示スコト
- (2) 協定利率以上ニ預カルベキ内情ヲ知ラザル者及小額預金者ニ對シテハ協定利率ヲ適用スルコト

(3) 得意先ニ對シテ協定利率ハ此ノ如クナルモ此以上預カルベシト口實ヲ作ルコト

(4) 預金利率ノ改定ヲ要スル場合ニ豫メ引上又ハ引下ントスル標準利率ヲ發表シ置クトキハ、實施期ニ至リ引下ケテナルモ一般ノ非難ヲ避ケ得ベリ、又引上ノ時ハ預金ヲ吸收スルヲ得ルノ利益アリ

蓋シ金融ノ狀況ニ應ジテ隨時利率ヲ改定スルヲ得ルテフ利益ハ、或程度ニ於テ各銀行ノ共通ニ感ズル所、又一般ニ認定セラルル所ニ似タリ、然レトモ協定廢止論ハ單ニ勵行不能ナリテフ事實ヲノミ根據トスルモノニアラズシテ、實ニ左ノ如キ趣旨アリテ存ス

- (1) 銀行ハ各資金放出ノ目的物ヲ異ニシ、從テ營業方針ヲ同ジウセザルニ依リ、時ニ一般協定利率ヨリ高ク預ルモ猶利益アル場合アリ
 - (2) 各銀行ハ經營ヲ同ジウセザルニ依リ高ク預ルトモ猶利益アル場合アリ
- (註) 小林榮次郎氏が四十三年ニ調査シタル所ニ依レバ大阪市ニ於ル一千萬圓以上ノ預金ヲ有スル銀行ノ十ケ年間ノ平均經費ハ百圓ニ付四厘三毛ナリト
- (3) 各銀行ハ必ズシモ金融ノ將來ニ對スル觀察ヲ異ニセザルニ依リ預金利率ヲ同一ニ律スルハ合理的ニ非ズ

(4) 各銀行ノ信用ノ異ナルニ依リ比較的低利ニテモ預金ヲ吸收シ得ルモノアリ、

(註) 明治三十三年ニ於ル三井銀行ノ預金利率單獨引下ハ之ガ例證ナリ

以上ノ理由アルニ拘ラズ實際ニ此說ノ行ハレザルハ

(1) 成ル可ク標準率ニ近似ノ利率ヲ以テ預リ得ルハ共通ノ利益ナルコト

(2) 信用アリ且有力ナル第一流銀行ガ利下ヲ爲シタルニ拘ラズ他ノ銀行ニシテ利下ゲヲ爲ササルトキハ、其營業ノ内容ニ何等カノ事情潛在スルモノノ如ク一般市場ヨリ疑ハレンコトナ慶レ、自ラ第一流銀行ノ行動ニ呼應スルニ至ルコト

(3) 更ニ第一流銀行ガ引上ヲ爲シタルニ拘ラズ、ソレ以下ノ銀行ニシテ之ト行動ヲ一ニセサル時ハ、預金ハ當然第一流銀行ニ吸收セラレ其活動範圍ヲ侵蝕セラルベク、從ツテ一流銀行ノ行動ニ必需的ニ拘束セラルルコト

(4) 第一流銀行ノ間ニアリテモ放出方面ノ如何ニ依リ協定利率以上ニテ預ルトモ猶利益アルコトアルモ、獨リ高利率ヲ標榜シテ徒ラニ多額ノ預金ヲ吸收セシヨリハ、寧ロ共同ノ動作ヲナシ利率ヲ低クシテ吸收ヲ自然ニ任スヲ以テ一層ノ利益トナスコト

故ニ既往ノ事例ニ徴スルニ銀行間ニアリテハ預金利率ノ引上ケヨリハ引下ケニ際シ議論アルモ

雜報

ノニ似タリ、蓋シ是レ各自ノ營業方針放出先ノ異ナルニ從ヒ自ラ利害關係ノ異ナルモノアルニ依ラズンバアラス。